

ひらたNEWS

2006年2月1日

第019号

ひらた医院は障害者スポーツを応援しています

早めに対策 今年の花粉尘

◆花粉症とは…◆

「花粉症」は、アレルギー性疾患の1つです。花粉が体内に入ることによってアレルギー反応が起こり、「くしゃみ、鼻水、鼻詰まり」や「目のかゆみ、涙目」など、主に鼻や目の症状が起こります。このように、異物を排除しようとする「免疫」の働きが体に都合の悪い症状を起こすことを「アレルギー」と言います。アレルギーを起こしやすい体質の人が、毎年そのシーズンに花粉にさらされ、花粉が何度も体内に入ると、やがて花粉（「抗原」＝アレルギーの原因となる物質）に対する「抗体」が体内でつくられます。さらに花粉にさらされると、抗体を介して花粉（抗原）と結合した肥満細胞から化学伝達物質が放出され、それらが粘膜の分泌腺、血管、神経などを刺激して症状（アレルギー反応）を引き起こします。これが花粉症の発症です。

◆初期治療が大切◆

日本で最も多い花粉症はスギ花粉症で、2～4月頃に症状が起こります。次いで多いのが3～5月頃に起こるヒノキ花粉症です。花粉の治療では、「初期治療」を行って、花粉の飛散前から予防的に対応することが大切です。初期治療には主に、「第2世代抗ヒスタミン薬」が使われます。この薬は、肥満細胞から放出されるヒスタミンが粘膜にある受容体に結合する反応を阻害する薬で、眠気を起こしにくく、長期間の服用に適しています。初期治療には、一般に花粉の飛び始める2週間前から行うのがよいとされていますが、第2抗ヒスタミン薬は多くの場合、花粉が飛び始めてからも使われます。飛散量が増加し、この薬だけではいよいよ症状が抑えられなくなったという場合には、薬を変更したり、別の薬を併用することもあります。また、花粉症だと思っても違う病気の可能性もあるので、まだ診断を受けていない場合は、初期治療を始める前にきちんと診断を受けることが大切です。
(参考：NHKきょうの健康) ひらた医院 院長 平田 孝浩

胃・十二指腸潰瘍ってどんな病気？

胃・十二指腸潰瘍は合わせて「消化性潰瘍」と呼ばれ、胃や十二指腸の粘膜に自ら分泌した胃液の消化作用により潰瘍が出来る病気です。消化性潰瘍は再発しやすく、合併症（出血、穿孔、狭窄）が発生する危険性があります。

なぜ潰瘍が出来るの？

胃液は胃酸とペプシンという消化酵素からなっています。通常、胃粘膜の表面は粘液で覆われ、防御機能が働き、粘膜を保護します。ストレスなど何らかの原因で防御機能が弱まると、胃粘膜が胃液に攻撃され潰瘍が生じます。最近ではピロリ菌が潰瘍の原因の一つと言われています。

詳しくは当院スタッフにご相談下さい。



	月	火	水	木	金	土
～ 2006年 2月 ～ February						
			21	2 AM	3	4
5 休診	6	7	8	9 AM	10	11 休診
12 休診	13	14	15	16 AM	17	18
<ul style="list-style-type: none"> ● ヘリカルCT 3/3 (金) 9時～12時半 ご予約はお早めに・スタッフまで ● 胃・大腸内視鏡の予約はお電話で出来ます。 お気軽にスタッフまでお声をかけてください。 						

HAPPY BIRTHDAY 43歳

2月13日で43歳になります。

これからも地域の皆様にご貢献すべく、日ごろの診療にあたりたいと思います。また、より高度な技術の習得とよりあたたかいサービスの提供に努めて参ります。

今後も社会的責任と医療人としての誇りを以って診療にあたりたいと思います。

平田 孝浩

電話予約

(前日の18時まで
に、木曜午後・日曜
祝日は受け付けて
いませんので注意し
てください)

インターネット予約

(前日の24時
まで)を受け付けて
います。ご利用
ください(〃)

医療法人 健愛会

ひらた医院

胃腸科・肛門科・内科・外科

〒870-1143 大分市田尻 478

☎097-548-7616

✉info@hirataiin.com

http://www.hirataiin.com/

診療時間：9時～18時

休診：日曜・祝日・木曜午後

急患：この限りではありません

院長 平田 孝浩

医学博士

外科専門医

消化器外科認定医

平成14年7月1日 ひらた医院開院